

今回は 夏休みに行われた関ジモト大学 の報告（その19）です。

◇ オンラインセミナー「関ジモト大学2021 online」

今年度は、昨年度に引き続きオンラインセミナーを実施しました。関市で活躍する「せき・まちづくりNPOぶうめらん」が主催する「関ジモト大学online」の場をお借りして、関市内の45企業と各企業のSDGsに関わる取り組みについての話を聞き、生徒が意見交換を行いました。

◇ 企業紹介

【せき・まちづくりNPO法人 ぶうめらん】

「若者が関に戻ってきて住み続けられるまちへ」を理念として、地元・関市の郷土愛醸成のためのフリーマガジン『ぶうめらん』や『高校ぶうめらん』の制作を始め、市民活動を支援する市民活動センターの運営など、関市のまちづくり事業を行っています。



【HP】 <http://vousmelan.com/>

SDGs	取 組 中			
------	-------------	---	---	---

◇ 関ジモト大学を受けて 生徒の感想

・今まで私は関市に対する興味があまりありませんでした。ですが話を聞いて関市にも誇れるものがたくさんあるとしました。ぶうめらんでは、まちづくりをするために、企業や学校と協力している事がわかりました。私がすごいと思ったのは、全国ピンクペイント運動です。塗装の仕事に応じて1m当たり1円をピンクリボンに寄付する事です。これが全国に広まって、本当にすごいなと思いました。ぶうめらんで行なっている活動は、活動自体がSDGsに繋がっているの、私は自分にできることを考えていきたいと思いました。”

・無印の刃物系が関市の刃物から作られているものがあるということを知り、驚きました。関市は、年々人口減っているから、絶対戻ってくるよというふうではないけれど、関市を活性化させていくために自分の地元に興味を持ってほしいと言われて、私はできるだけ将来関市に残って働きたいなあと思いました。また、関市はやっぱり刃物で有名だし、それに直接的に関わるようなことは滅多にないけれど何かできたらいいなあと思いました。

・若者が将来関に戻ってきてくれるように、様々な活動をしていることがわかりました。関市にある企業の名前を10個以上答えられる若者は少なく、それが関の若者離れを引き起こしていると考え、沢山の関にある企業と協力して、その企業のいいところや名前を広めて、高校生のみなら

ず中学生、小学生に知ってもらおうとしているのがすごいと思いました。また、実際にぶうめらんを見て、その職業についての方がいると知ってびっくりしました。僕も将来、地元で貢献できるような職業に就き、地元の良さを発信していきたいと思いました。

・まちづくりの観点がものすごく新鮮でした。市の職員のまちづくりのお話などは聞いたことがあったのですが、企業としてまちづくりをするという部分がおもしろいと思いました。自分は高校を卒業したら関、岐阜を出たいと思っていて、それは俗に言う“都会”への憧れなどがあつたりします。でも、将来なにか地元と関われる活動してみたいと思うし、今からでも地元のまちづくりという観点で、自分ができていることを考えていきたいです。

・「ぶうめらん」というものは小学生だった頃から度々配られていたのでよく知っていたが、それが一体何を目的としているのか、また誰が発行しているかはこれまで知らなかった。それゆえ、この NPO が関の子供に将来的に地元で働いてもらうことを目的としていることに驚いた。また、地元の伝統や特産品を SNS という最新のツールを用いて広げている姿を印象的に感じた。

・最初のお話で、医療用メスが、世界シェア 1 位なことを初めて知りました。郷土愛を醸成し、関市で働くイメージを作り、さらに企業も盛り上げ、そして市民がイキイキできるようなまちづくりをするという 4 つのサイクルを実践されていて、素晴らしいなと感じました。話を聞いていると、やはり関市は魅力的だと感じました。僕も将来関市に貢献できるようにしていきたいです。お忙しい中ありがとうございました。

・自分の地元の魅力にそこまで興味は持っていなかったけど、今回の講座で改めて自分から目を向けてみたいと感じました。そして、それを周りに発信していくことで高校生でも SDGs に大きく関わることが出来ることも理解出来たので、自分から行動することも挑戦していきたいなと思いました。

・お話から、地元関市への地元愛がよく感じられ、地元の工芸品、企業についてよく調べていて、そこからまだ出来ることのあるのではないかと、サービスを改善できないかを考えて住み続けられるまちづくりを目指しており、そしてそのことを仕事として続けていることが素晴らしいと思いました。また、これからの高齢化社会で大事になってくる福祉の面にも目を向けて、地元みんなでその課題を解決するためと頑張ろうとしているところもいいと思いました。

・地元の良さや住み続けられるにはどうすれば良いのかなど自分の地元、地域にもっと興味を持つとうという内容だった。自分の場合は美濃市なので美濃和紙、また関の刃物の魅力(無印良品に使われている。全国の 6 割が関刃物であるなど初めて知った。)に気づいた。小さいことから何か地域のためになることを具体的に行動に移していこうと思った。ちょうど昨年美濃市が活発化するための活動をしていらっしゃる方の話を聞いて、同じことを思った。SDGs の活動でそちらの方面の内容も取り組みたい。

・実際に関市でまちづくりをしてきた経緯を聞くことが出来た。今まで、まちづくりは市役所の人たちがやっていると思っていたけど、民間の NPO や会社などでまちづくりに取り組んでいる話は新鮮だった。まちづくりをしていくにあたって、やはり自分たちが関のことを知り、発見することが必要だと再認識できた。関には何も無いと言わずに何かを見つける、作る事が大切だということが分かった。

・市内はもちろん、多くの地域に関わろうとたくさん行事やイベント、雑誌などを行ったり出版したりしていることが分かった。また、関市の高校生と地元を盛り上げようと一緒に活動したり、小中学生に関市を知ってもらうきっかけを作ったりしていることが良い取り組みだと思った。若者が関に戻り、住み続けられる街にするために ぶうめらんの方が働いて下さっているから関市が良くなっているのだと思う。私の地元も、もっと住みやすい街にするために出来ることをしたいと思った。

・関ジモト大学などで興味を持った人をさらに支援する誌面と連動したイベントを開催していてとても驚きましたし凄い活動だと感じました。この関ジモト大学で関の魅力を感じたので、さらに知っていきたいなと思いました。

・ぶうめらんによって、関市民の意識が変化するように制作されていることが分かりました。したいことを思うだけでなく、行動することが大切だと改めて感じました。また、製作者さんが楽しみながら作られていることが素敵だと思いました。その他にも、関の企業の活躍も知ることができました。この講座を受けて、関で働きたいという気持ちがより強くなりました。

・ぶうめらんは、私は去年もオンラインセミナーでお世話になっていて、正直内容は同じかなと思っていたのですが、今回は去年とまた違う内容のお話を聞かせていただきました。ぶうめらんという会社名の由来は、関市がV字であること、若者がぶうめらんのように戻ってくるようにという意味があります。お話の中で一番心に残ったことは、ぶうめらんは次の一歩を提案しているということです。たとえば、デートスポット特集を掲載したら、そこに合コンを提案するというようなことです。